

低温・降雨下における野菜の管理対策

平成 29 年 10 月 18 日
 農業総合センター
 専門技術指導員室

関東甲信地方週間天気予報（10月19日から10月25日まで）において、週前半は気温が低く、週を通して降水量が多いことが予測されています。また、22日頃から台風21号の進路により大雨や強風等にも警戒が必要です。農作物等への影響が心配されることから、野菜の主な品目の管理対策をまとめましたので、業務の参考に願います。

作物名	管理対策
野菜類共通	①野菜の苗床では、苗の間隔を十分にとる。 ②ほ場周囲に明渠を掘るなど、圃場の排水に努める。 ③茎葉が軟弱徒長しやすいことから、施肥は控えめとし、灌水も天候を見ながら加減して過湿を避ける。 ④軟弱な生育をしているときに、急に晴れると激しい萎れを起こすことがあるので、遮光を行いながら馴化する。 ⑤着果過多を避け、可能な場合は早めに収穫して、株への負担を軽減する。また、根の活力が低下しているので、雨の合間をぬって液肥の葉面散布を行う。 ⑥病害虫の発生が多くなるので、適宜下葉かきを励行し、予防及び発生初期の防除を行なう。 ⑦連続した降雨が予想されている場合は、雨の合間をぬって防除を実施する。 ⑧薬剤散布を行なう際、軟弱な生育をしている場合は薬害を生じやすいので、登録の範囲内で散布濃度を低めにする等の配慮をする。
施設野菜	①施設内で湿度の高い空気が滞留しないよう、換気に努め、可能な場合は循環扇も利用する。 ②できる限り被覆資材（天井やカーテン）は新しいものを利用し、日照不足にならないようにする。外張りに遮光塗布剤が残っているときは、専用の洗浄剤等で洗い落とし、採光を図る。 ③キュウリ、ピーマン等で低温が予想される場合は、内張りカーテンや暖房機等を稼働させて保温に努める（最低気温の目安 キュウリ 15℃、ピーマン 18℃）。
露地野菜	①肥料の流亡が多い場合は追肥を行うが、過剰になると軟弱な生育となるので、必要最小限とする。また土壌水分が多いうちに作業すると、土壌を固結させたり、茎葉や根を損傷して病害発生を助長するので、水がはけた時に行う。 ②茎葉に泥が付着したものは、葉面散布や防除時に洗い落とす。薬散の際、作物が濡れているときは展着剤を加用しない。

【タマネギ】

- ・本ばは適湿な状態で作畝を行う。土壤水分が多いときに耕耘すると、土塊が多くなり活着が遅れる。また、水田では明渠施工や稲ワラを除去し、土壤水分を低下させる。
- ・せん葉後は葉散を行う。特に、べと病、ボトリチス葉枯れ病、白色疫病の予防を行う。
- ・葉が黄化してきたら、液肥を散布する。

【秋冬ネギ】

- ・降雨により、病害の発生が多くなる。特に、べと病、ボトリチス葉枯れ病、白色疫病の予防を行う。
- ・出荷時には水分をよく切って、箱詰めする。

【初夏ネギ】

- ・苗箱を浮かせ、過剰な水分が抜けるようにするとともに、根の通風性の向上を図る。
- ・せん葉後は葉散を行う。

【ハクサイ】

- ・べと病の発生に注意する。

【レタス】

- ・べと病、すそ枯れ病の発生に注意する。
- ・収穫後、十分に水分を抜き出荷する。

【キャベツ】

- ・黒斑病、細菌性の黒腐病及び黒斑細菌病の発生に注意する。